

Contents

市民協働のまちづくり…	2
平成20年度決算 ……	8
市政ニュース ……	11
まちの話題 ……	14
お知らせ ……	20



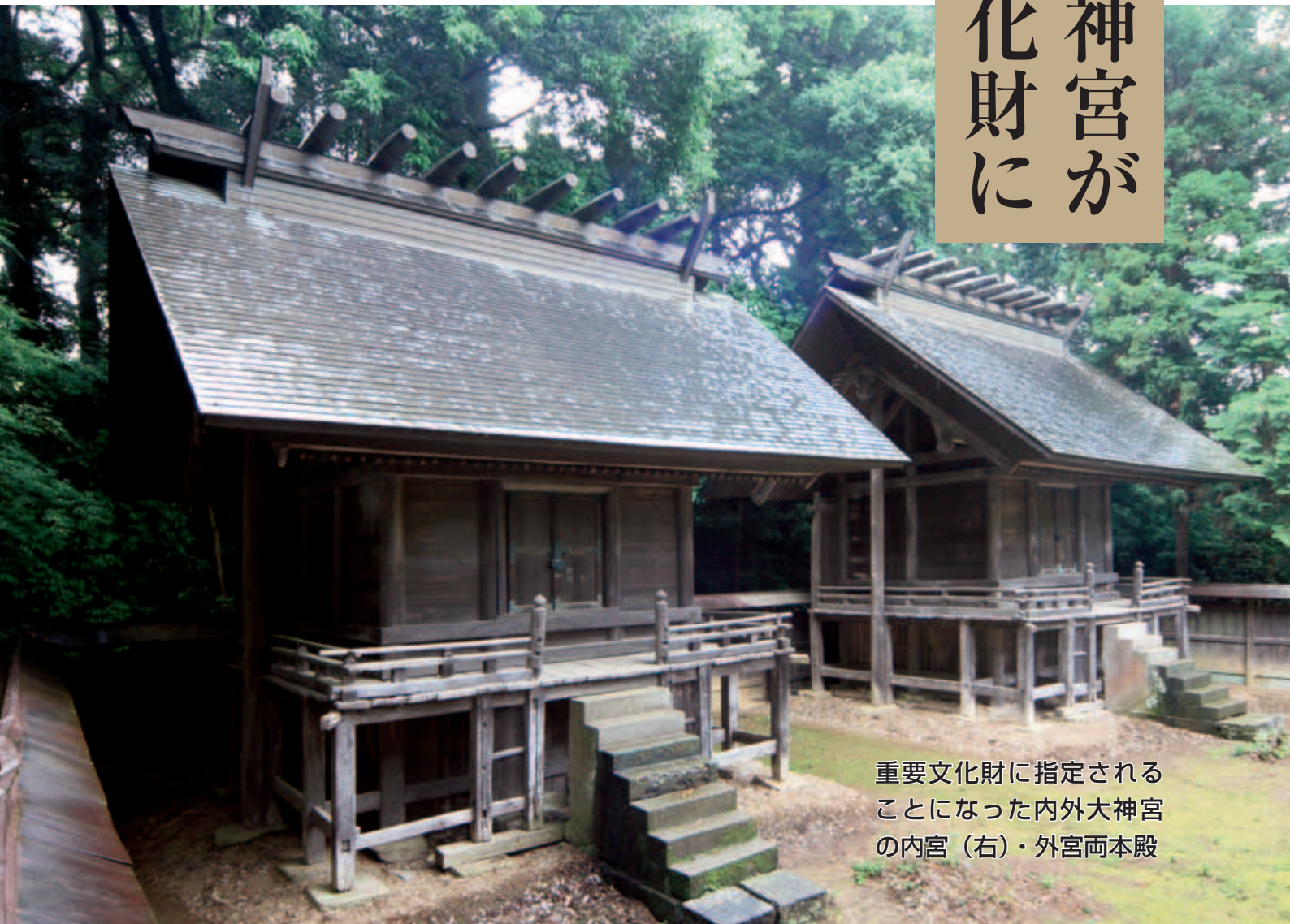
秋の祭礼を開催

11月8日には、秋の祭礼（太々神楽の奉納など）に合わせて、内宮・外宮の御門が開放されます。壮麗な神殿建築をぜひご覧ください。

国の文化審議会は、協和地区小栗の「内内外大神宮」を重要文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。指定されれば、市内の建造物では初めての国指定重要文化財となり、県西地域の社寺建築として、実に103年ぶりの指定となります。

内内外大神宮は小栗北部の丘陵地に建ち、中世には伊勢神宮領の小栗御厨であった地域に鎮座しています。内宮・外宮の両本殿は、延宝7年（1679年）に建立されました。本来の神社本殿の姿をとどめたとみられる神明造で、同建築様式の遺存例は全国でも少なく、大変貴重であることからその希少価値が認められました。また、本殿2棟を並列させる社殿形式としては最古で、近世の社殿構成を伝える上でも価値があると評価されました。

小栗の内内外大神宮が 国指定重要文化財に



重要文化財に指定されることになった内内外大神宮の内宮（右）・外宮両本殿